

学校だより

学力特集号
令和3年11月10日
北九州市立沖田中学校
校長 鶴田 豊

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

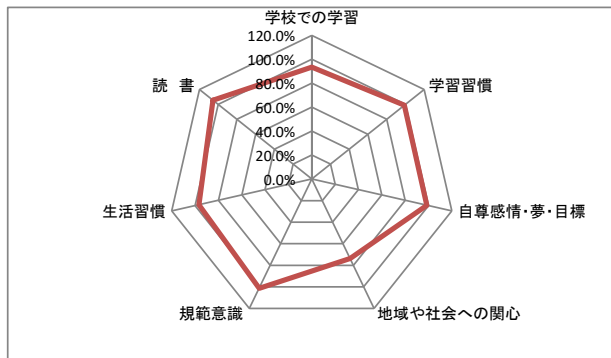
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	言語についての知識・理解は高い数値を示していたが、「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」などの技能面で低い数値だった。特に文章から自分の考えをもつことや、自分の伝えたいことを相手に伝えるように書くことを苦手としている傾向がある。	下回っている
数学	「関数」の分野は正答率が高かったが、「数と式」「図形」の正答率が低かった。また一昨年に比べ、記述式の問題の正答率が高かったが、式を変形してその意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を説明する問題を苦手としている傾向がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 話し合う活動では、自分の考えを深めたり、意見を聞いたりする生徒は全国平均より高い。課題は、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する力を身に付けることである。
- 普段から1日3時間以上ゲームをする生徒の割合が全国平均に比べ14%高かった。
- 将来の夢や目標を持つことに関する質問には低い傾向があったが、自尊感情が高い点や、人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒の割合は高かった。よって、今後もキャリア教育などから、明確な夢や目標が持てれば、より成長できると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 文章に表れている本質を読み取り、それを自分の考えで相手に伝わりやすいように、書いたり説明したりする力を身に付ける取組みを全学級全教科で行う。
- 話し合い活動を通して、思考力・判断力・表現力を育む授業展開は、今後も続けていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

朝食を毎日食べる生徒の割合は、一昨年度に比べ低くなってきている。また、就寝時間が安定していなかったり、ゲームを普段から3時間以上している生徒が多かったりと、全国平均に比べ生活リズムが安定していない傾向にある。しかしながら、自分で計画を立てて勉強している生徒が、全国平均よりも大きく上回っているため、生活リズムが安定すれば、より質の高い学習ができると考えられる。